



卒業生を送る会〜大空にはばたこう〜



2023年3月

高校三年生の児童を新しい環境へ送り出す季節が今年もやってきました。毎年この時期が近づくとあちらこちらから、「〇〇君ももうすぐ卒業やんね?」「卒業したら、もう遊ばれへんくなるからいやや〜」と子どもたちの切ない声が聞こえてきます。

その中でも今回は、4つの事業所で過ごした経験のある、Y君という一人の児童にスポットをあてて、錦織ルームで開催した「卒業生を送る会」当日までの様子を紹介したいと思います。



Y君は中学一年生の時からほぼ毎日きらりに通ってくれており、普段は物静かでパズルやアイロンビーズ等の制作活動を好んで行っています。

ただ困っているお友達がいたら放っておけなくて、近くに行って話を聞きに行き、喧嘩の仲裁をする時には「ダメなことはダメ」と、いざという時はしっかりと自分の考えを伝えることができるそんな男の子

でした。

そんなY君だからこそみんなからとっても慕われていて、「送る会で何か出し物をして、Y君に見てもらいたい」といった声が自然と沸き上がり、その声を形にしようと職員も間に入りながら、みんなで出し物の内容を話し合い、決定したその日から出し物を練習する日が続きました。



送る会当日は、最初に「3月9日」の曲をバックにこれまでのY君との思い出の写真の数々を、スクリーンに写し出しました。Y君は自分の小さい時の写真を見て照れている様子でしたが、周りのみんなは感傷に浸る様子で食い入るように映像に見入り、もうこの時点で寂しくて涙が溢れている児童もいました。

そして次はいよいよ当日まで練習を重ねてきた、在校生による「翼をください」の合唱です。

合唱前の送辞や指揮者など、それぞれのパートも自分たちで決めて、送辞を担当した児童からは「今までいっぱい遊んでくれてありがとうごさいます」と、職員も驚くほどはっきりした口調で伝えることができていました。

合唱も緊張と寂しさで声につまる様子もありましたが、必死で合唱を送るお友達の様子に、Y君も真剣な面持ちでみんなの様子を眺めていました。全員が一体となった合唱を終えた時は、自然とY君を囲み、歓声や拍手が起りました。

涙涙の送る会でしたが、みんなの声やその思いはきっとY君にも響いていたと思います。みんなから愛され、色々な経験を共にしてきたY君。4月からは新しい環境に巣立っていきますが、自信をもって歩んでほしいと職員一同願っています。

